

南米に於ける
ドルの活躍

十九世紀より二十世紀にかけて英國資本の天下に誇るることを周知のところなるが、彼の世界大戦をしてアメリカ其の位置をとつて代られ爾來米資の活躍は年と共に旺んとまざり、今日に於て英資がやうやく舊位置を保ちるは其屬領だけとなつた、殊に米大陸に對してはモンロー主義を振りかざして他國資本の脅威逐く力め、戰前後況アメリカに於ける米國投資額は實に左の如き顯著な進展を見るに至つた。

である(単位百万ドル)

國名

一九一〇

一九二〇

一九三〇

一九四〇

一九五〇

一九六〇

一九七〇

一九八〇

一九九〇

二〇〇〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇八〇

二〇九〇

二〇一〇

二〇二〇

二〇三〇

二〇四〇

二〇五〇

二〇六〇

二〇七〇

二〇

ブラジル行政區

區轄改正説起る

伯國首裏都市中人口で成績か第
計位であった

激増せる

聖州の人口

州農務

農業部

肥料、殺虫剤

雜貨部

各種雜貨器具

農業製品、農具

肥料、農業製品、農具

奉 祝

賴信商會

雜貨、馬鈴薯、米、米穀

農具、雜穀印小賣

奉 祝 天長節

松屋商店

松下正彦房治彥

奉 祝 天長節

松屋商店

内外食料品、雜貨、日本品

奉 祝 天長節

コチア産業組合

同文部

野菜出荷組合

同教育會

ジヤグアレ日本人會

タボン農會

サンロツケ日本人會

カンボ・リンボ農會

エメボイ青年會

中尾熊喜

中尾肥料工場

同分會

ジャグアレ青年會

モリシビー青年會

カンボ・リンボ青年會

エメボイ青年會

聖西聯合青年會

同

聖西聯合青年會

ズボンを

穿いて寝る夫

聯盟脱退の話

「君の枕もとに坐つた細君が拂り起した

「何時でもいいぢやないか」

毛布を引被つたA君が「もすこし寝かしてくれよ」と云ふ様に云つた

「よかないワよ」

「いはまさん!」

子供を叱る様な調子で細君が云つた。Aの眼はもうすつかり覚めてゐた

「ねえ、大變よ」

細君が急に改つて慌てゝ云つた

A君はそれで毛布から頭を出した

「ねえ、大變よ」

細君が急に改つて慌てゝ云つた

A君はそれでも毛布から頭を出した

「ねえ、大變よ」

細君が急に改つて慌てゝ云つた

「日本が愈々聯盟を脱退するんですかつて……」

「なんだ、そんな事か」

「そんな事ぢやないわ、日本が脱退したら大變な事になるんぢやないの」

さう云つてAは又毛布を被つた

「まあ、駄目ぢやない! 起きなくつちや」

細君はすこし慌てゝ毛布を引き寄せさうとした、するとA君が朝のあみあつけでもあいしく作る事を研究すればいいんだ

「そん事をすると聯盟を脱退するぞ!」

細君はすこし慌てゝ毛布を引き寄せさうとした、するとA君が毛布を引被つたまゝで云つた

「そん事をすると聯盟を脱退するぞ!」

聯盟を脱退するといふ事は、A君夫婦の間の新造語で「家を出て行く」といふ意味だ

一ヶ月ほど前に事だつた、A君の細君が「聯盟脱退」を宣言してゐる。その一週間といふもの、しみじみ恍びしさと不自由さを覚え、細君が「聯盟脱退」をじめやもひ暮しの不自由ひどい目にあはせた、Aは細君ひいきの細君が「聯盟脱退」を宣言してゐる。A君が床に入つて寝よう夜、A君が床に入つて寝ようとしてゐる時だつた、次の間で

「ねえ、もうほんとに寝たの?」

Aは黙つてゐた、Aが黙つて云つたので細君は緩けて苦悶を掛ける。「ねえ、もうほんとに寝たの?」

するとA君が鼻と咽喉を鳴らして涙を入りの軒を大きくした

「ぐう……ぐう……ぐう」

それでも細君がやさしく甘えを離で云つた、細君には、「このモアあるA君の悪戯が『愛は死に返辭』とは解する事が出来なかつた

「いいわね、人がものを云つて返辭もし食ひなんて」

さう云つて細君はそのまま黙つて床に入つてしまつた、そして長い沈黙が暗闇の中でつよいをA君細君が顔をよくさせて、十

「いいわね、人がものを云つて返辭もし食ひなんて」

さう云つて細君はそのまま黙つて床に入つてしまつた、そして長い沈黙が暗闇の中でつよいをA君細君が顔をよくさせて、十

「いいわね、人がものを云つて返辭もし食ひなんて」

さう云つて細君はそのまま黙つて床に入つてしまつた、そして長い沈黙が暗闇の中でつよいをA君細君が顔をよくさせて、十

「あ休みー」
「うるさいわよ、ひとがもの
云つても黙つて返辭しない
なんて……いくら僕慧か
（おないけど……）」
細君がぶん／＼した調子でい
た、A君はヒスチリーが起き
ま、と思った、そしてニセ
を解さない女は困ると、思つ
「どうぞ、聯盟と脱退して下
いよ、あなたの顔なんかも
見飽きちやつたから……細
君もつて出て行つてよ」
さう云つて細君はいきなりA君
の引被つてゐる毛布をはいた
「あら！ あ愈したズボンなん
穿いて寝てたの？」

SOCIEDADE COLONIZADORA DO BRASIL LTDA.
Travessa do Grande Hotel, 1-sob.
Caixa Postal, 2975 - Telephone 2-1342
SÃO PAULO - Brasil

聖天祝奉 商プロダクト

デ・デ・サルゼーグス第三番 本亭 市人長節 拓ジルバ バストス チエテ ノバアリアン トレス・バラ

組合

Fazenda Bastos Caixa, 93 Est. Rancharia L. Sorocabana
Fazenda Tiete' Est. Valparalzo L. Noroeste
Fazenda Nova Alliança Est. Lussanvira L. Noroeste
Fazenda Trés Barras Est. Villa Jatahy L. S. Paulo-Paraná

三三二年の デ・孟戦展望

〔デ・孟戦〕
は如何にして戦われるか——デ・孟戦

は参加する

勝つから日本の勝はるが、假令

アメリカと歐洲の二ヶ國が、その

選手が先づ行進される、普通これ

をアメリカン・ソーンとユーロ

ピアン・ソーンに於て北米と南

米の優勝國が試合してその勝つ

方好アーリカン・ソーンの優

勝國とする、これをインター

ソーン・ファイナルと云ひ、此

の試合に勝つた方が愈々年度

のデ・孟保持國と挑戦する事にな

り、これをチャレンジ・ラウン

ドと云ふ

〔今年の〕
デ・孟戦参加國第三

十三ヶ國で、その

中歐洲ソーンが二十四ヶ國、その

アメリカン・ソーンが九ヶ國

である、アメリカン・ソーン

では米國が断然強く勝負の面

白味盡んどない、處が歐洲

ソーンでは技術伯仲

澤山あり、殊に昨年獨逸が歐

洲ソーンの最も有力な優勝候

補であつた英國を破つて優勝

して斷然優勝角を獲はして來れ

事ある事に多大の功勞を發揮

された事と思ふ

〔扱〕〔日本〕
の今年の陣容は昨

日本としては恐らく最上のテ

ームで、最近で一番充實したテ

ームである

〔第一回〕
戦はハングリーと

日本選手権試合に佐藤

と昨年金日本選手権試合に佐藤

を二度破り、ウインブルドン

昨年のワインブルドンにダブル

で準決勝まで達つた佐藤選手

とスコットランドでアーリ

ンドで當る、アイルランドには

ローディヤースと云つて六尺五寸

〔第二回〕
戦はハングリーと

日本選手権試合に佐藤

と日本選手権試合に佐藤

を二度破り、ウインブルドン

で准決勝まで達つた佐藤選手

とスコットランドでアーリ

ンドで當る、アイルランドには

ローディヤースと云つて六尺五寸

〔第三回〕
戦はハングリーと

日本選手権試合に佐藤

と日本選手権試合に佐藤

を二度破り、ウインブルドン

で准決勝まで達つた佐藤選手

とスコットランドでアーリ

ンドで當る、アイルランドには

ローディヤースと云つて六尺五寸

〔第四回〕
戦はハングリーと

日本選手権試合に佐藤

と日本選手権試合に佐藤

を二度破り、ウインブルドン

で准決勝まで達つた佐藤選手

とスコットランドでアーリ

ンドで當る、アイルランドには

ローディヤースと云つて六尺五寸

〔第五回〕
戦はハングリーと

日本選手権試合に佐藤

と日本選手権試合に佐藤

を二度破り、ウインブルドン

で准決勝まで達つた佐藤選手

とスコットランドでアーリ

ンドで當る、アイルランドには

ローディヤースと云つて六尺五寸

〔第六回〕
戦はハングリーと

日本選手権試合に佐藤

と日本選手権試合に佐藤

を二度破り、ウインブルドン

で准決勝まで達つた佐藤選手

とスコットランドでアーリ

ンドで當る、アイルランドには

ローディヤースと云つて六尺五寸

〔第七回〕
戦はハングリーと

日本選手権試合に佐藤

と日本選手権試合に佐藤

を二度破り、ウインブルドン

で准決勝まで達つた佐藤選手

とスコットランドでアーリ

ンドで當る、アイルランドには

ローディヤースと云つて六尺五寸

〔第八回〕
戦はハングリーと

日本選手権試合に佐藤

と日本選手権試合に佐藤

を二度破り、ウインブルドン

で准決勝まで達つた佐藤選手

とスコットランドでアーリ

ンドで當る、アイルランドには

ローディヤースと云つて六尺五寸

〔第九回〕
戦はハングリーと

日本選手権試合に佐藤

と日本選手権試合に佐藤

を二度破り、ウインブルドン

で准決勝まで達つた佐藤選手

とスコットランドでアーリ

ンドで當る、アイルランドには

ローディヤースと云つて六尺五寸

〔第十回〕
戦はハングリーと

日本選手権試合に佐藤

と日本選手権試合に佐藤

を二度破り、ウインブルドン

で准決勝まで達つた佐藤選手

とスコットランドでアーリ

ンドで當る、アイルランドには

ローディヤースと云つて六尺五寸

〔第十一回〕
戦はハングリーと

日本選手権試合に佐藤

と日本選手権試合に佐藤

を二度破り、ウインブルドン

で准決勝まで達つた佐藤選手

とスコットランドでアーリ

ンドで當る、アイルランドには

ローディヤースと云つて六尺五寸

〔第十二回〕
戦はハングリーと

日本選手権試合に佐藤

と日本選手権試合に佐藤

を二度破り、ウインブルドン

で准決勝まで達つた佐藤選手

とスコットランドでアーリ

ンドで當る、アイルランドには

ローディヤースと云つて六尺五寸

デビス・カップ

物がたり

由来

デヴィス・カップの

スッカッブの

凡そテニスに

興心をもつ者

でこのデ・ヴィ

ス・カッブの

の例であるかと問はず参加

者を許すことになつた、最近風

チニスの普及と併せて参加国

が激増して三十有餘國といふ

が、金メダルを獲色を見せず、ク

レイコートで六十餘人と戰つ

て一敗もせず、ローンで四人

の選手が敗れたのみと云ふ

ら金メダルを獲色を知るべ

く全メダル・ランキングの三位四位

の好成績を示し、清水選手は

印度にあつて無敵の王座を獲

にし、遂に全(二頁へ續く)

聖市アベニーダ・サン・タオントラバ

二階、十三、十四室

奉祝天長節

日本薬局

聖市タバチングーラ街二番

電話二・六七四五番

奉祝天長節

渡邊銃器店

聖市イルマン・シンブリシアナ街十八番

電話二・三七六九番

奉祝天長節

支店

ノロエスティ線アラサーバ市

支店

全線 グララップス町

支店

聖市バウラ・ソーザ街四六B

國騙さ
伊太利
ファシ

畏き聖日

木村貫一郎

天皇陛下にござり、一昨年の某日
に國語調査會幹事長保科一氏を召
御學問所に召され、國語國字假名遣
名遣をはじめ、國字改良運動の
經過并其現状といふ御熱心に聽
召され、更にローマ字問題と關
して成日本式へボン式の比較を
につき御説明と御聽取せられ
たが、その後陛下は長くも保
科幹事に對し
「詔勅は非常にむづかしいと思
いますが、お前はどう考へるか」
との御下問があつたので、保科
幹事は非常な恐懼して
「詔勅がむづかしいことは
申し上げるだけ長れ多いことで
ござりますが、詔勅を平易にし
ていただきたいことは私個人と
しての考へでなく、今や國民一
般に希望申し上げてゐるところ
でござります」
との意味を奏上したところ、陛
下には「一々御肯かねなかつたと承
るが、御建議は實に豫定の一時
間を超へて一時間三十五分に亘
つたといふ。
陛下のめりがたき賛言と、保
科幹事の奉客の意味を推量りて
更に深く考る時に、國民一般平
易にしたき國字は獨り詔勅ばかり
であらうか。
漢字の難解に困り、之れが爲
にほん漢字訓讀を設け今や一八五
七年に限定してゐるが、元來漢
字に音訓の外其讀み方解し方
多様にして、生の字の如き其讀
み方二十四通りありといふ程に
て、平均一字に就き五通りある
とすれば一万近くの數となる。
而して此制限ゆ爲に重要なる然
るの内の一字に假名を充用せね
ばならぬ不體裁を見ねばならず
到底漢字訓讀は體裁見る窮屈に
過ぎず。

（七頁より續く）英庭球選手製
謂「ウインブルドン大會」馳せ
參じ世界の名だるゝ風剛を薦
め倒し（後にも先にも日本選
手で同大会決勝に残つたのは
清水選手のみ）最後に米のチ
ルドンが戦の未惜敗したが
その奮闘は英國民憧憬的的
とあり「東國より小さきア
レヤー」として人気を博し現
かくて大正十年のデスマ戦に當
熊谷選手は三菱から清水選手
は三井の手により旅費万端立
替えは支給されて一路米國を
自指して漫遊遠征の旅につい
おかば雑詠
木村圭石選
岩波拘二
中島麻女

科書を作る必要あると思ふ
佳師を観る際
確に感心するは我等
易益見る國語とすべき
字一殊に日本式の字
て字も用ひ必要考慮するは我等
切れる問題ではあるまいか
上の趣旨は昨年のアリアン
報の天長節歌にも寄せたる國語
かるが此頃更に漢字廢止
する喜ばしき吉報耳にし
切れる問題ではあるまいか
で附添へて置く即ち國語
同盟の生れたことである
語を愛し漢字の災及びそ
依る國民教育の障を除く
—我々日本ローマ字會の目
同じで此同盟が生れた
年九月廿九日
國語國字
こそ(國語
従てこと
はからうし
にかかる
まか、假
導いて
とになる
注意する
各自にて
は實にむ
からその
に通じて
などとの取
先づ漢
漢字解説
三)同盟
字會、假
音も然
ではある

月ひ準備會にて(一)
大臣ひラヂオでの講演
づかし言葉であつ
ことを大臣と放送局
ど(二)我々仲間は放
關係ある職業人々
を呼び起させること
員会であるべくロー
名文字會員となること
極めがあつたといふ。
苦悶の叫びは今や上空
の聲である。我等移
深く考を要すべくこと
まい。

奉祝天長節	ホテルアラサツトバ 平井八十衛

奉祝天長
農產物仲
櫻木
奉祝天長
遠蔵
奉祝天長
ウイスマン棉
倉庫マ
大石自動
各種機
奉祝天長
製菓卸小賣
天長
龜屋

奉祝天
影山
内外雜貨
ガゾリーナ、
トド補給所
沖
奉祝天
内外雜貨
ボトランチン
珈琲、棉花
内外雜貨
支
日本
奉
支
棉花部

日本陸上選手

八月下旬聖州來訪

トマチ
を求む

總領事館入手の公電によれば昨

年來安養寺顯三君以下サンベウ

ロ青年會主唱西山總領事等

下に奔走中であつて日を陸上選

手南米訪問はいよいよ確定、來

六月二十日横濱解纜の樂津丸

シナン、ウルグアキに於て其地

陸上選手を渡し八月二十七日

聖地遊覽、翌九月二十日オ

訪の選手は現在のところ左記五

名であるが招待側では其ほか

鐵田、南部、西田三選手の中よ

り是非一人招待したき意向でそ

の旨照會せる由

來訪選手名

住吉（槍）

大島（三段跳）

田島（走中跳）

藤枝（八百米）

中島（四百米）

六六米八〇

一五米五〇

七米五〇

一分五八秒

四九秒

八及令合

ゼツリオ大

統領遠去廿

五日午後夫

八及令合

大統領

奇禍

軍縮會議

開かる

賀陽宮殿下

外遊御延期

懸案解決

コチア産業組合

懸案の通り

組合事務局

十餘名

監督役岡村氏就開會勞頭今次

れも三割方の議題を目論んでる

見事の旨仰出されてゐたが、其

賀陽宮恒憲王殿下同妃殿下には

賀陽宮並び新米へも御外遊の

思召にて去月廿四日神戸出帆の

は前總會の五十七名に對し百五

十餘名

作付一般良好で来年度は何

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonez de maior circulação no Brasil

Anno XIX

São Paulo - Sabbado, 29 de Abril de 1933

Num. 830

NIPPAK SHIMBUN

Diretor-Proprietário:

SACK MIURA

Redactor da pagina brasileira: José Sólo

Redacção, Administração e Oficinas:

Rua da Liberdade, 144-A e 146
Caixa Postal, 375
Telephone 2-3926

Endereço Telegráfico: "Nippak"
SÃO PAULO - Brasil

SIGNATURAS

Para o Brasil

Por anno	30\$000
Por semestre	16\$000
Número avulso	\$300
Para o Exterior	60\$000

Annuncios

Temos à disposição dos interessados
uma tabela completa de preços para
annuncios nesta folha. Telephone 2-3926

O dia do Imperador

Commemora-se hoje no Japão
o maior dia do ano: - o aniversário do Imperador

S. M. Hirohito, soberano intelectual e democrata, receberá hoje as felicitações de todos os seus subditos em geral, pois gosa da estima e admiração de todo o seu povo.

Nascido a 29 de Abril de 1901 completa hoje 32 anos de edades.

Desde a sua subida ao trono, em 1912, o jovem monarca acompanha com grande interesse os acontecimentos mundiais.

Desejando conhecer melhor o Brasil, em 1929, mandou chamar ao palácio imperial o embaixador do Japão no Rio de Janeiro, dr. Ryoji Noda, para melhor informar-se, manifestando grande atenção e entusiasmo pela descrição que aquele diplomata lhe fez do povo brasileiro. Data de ahí o alargamento das relações nippo-brasileiras, pois S. M. teve provas do carinhoso acolhimento que recebem os japoneses aqui no Brasil.

Hoje, como todos os anos, haverá recepção na residência do sr. Consul Japonez em S. Paulo, grandes festas em todas as colônias e centros japoneses, onde se farão votos para que S. M. Hirohito tenha vida longa e feliz.

Menções com a Holanda

TOKIO, 20 — "O tratado de arbitragem e de conciliação que acaba de ser concluído entre a Holanda e o Japão veio cristalizar a velha amizade existente entre as duas nações e contribuirá para conservar essa amizade" — diz o comunicado publicado pelo Ministério dos Negócios Estrangeiros.

Esse tratado esculpil: 1º) que todos os conflitos susceptíveis de surgir entre dois países e que não possam ser解决ados por via diplomática normal serão levados ao comitê permanente de conciliação; 2º) esse comitê permanente de conciliação se comporá de um membro japonês, um holandês e três de outras nacionalidades e entrará em função no mesmo dia em que o convenio for posto em vigor; 3º) As divergências surgidas entre os dois Estados poderão, em caso de consentimento mutuo ser levadas também à Corte de Arbitragem de Haia.

Notícias e telegrammas do Japão

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN e dos jornais)

Balança Commercial

durante o mês de Março

A balança commercial do Japão durante o mês de Março p. p. accusou 144.000.000 de yens de exportação, sendo de 44.000.000 o excesso da importação sobre a exportação. Esse algarismo, comparado com o identico em igual período do anno passado, accusou um aumento de 48 % na exportação, e um decrescimo de 37 % na super-importação, sendo o total de super-importação, desde janairo até março, de 169.000.000 de yens, e de 10.000.000 de yens o aumento da mesma, em confronto com o de igual período do anno passado.

As principais mercadorias que experimentaram aumento na exportação são as seguintes: tecidos de algodão, idem de sedas natural e artificial, frajola de trigo, artigos de tricot, louças, porcelanas, brinquedos e etc., menos seda natural e fio de algodão. Na importação, verificou-se que os artigos: lá, ferros, óleo natural, machinhas e óleo de linhaça experimentaram aumento, tendo sido diminuído algodão e feijões. O commercio exterior para com a China, durante o mês de fevereiro p. passado, foi o seguinte: Exportação de 11.000.000 de yens, sendo a super-exportação no valor de 3.000.000. A porcentagem do commercio de exportação, realizado com as diversas partes da China e comparada com igual período do anno passado, accusa o seguinte resultado:

Augm. de 91 % na exportação. Augm. de 360 % na super-exportação. Para o Norte, augm. de 27 %; para o sul da China, augm. de 112 %; para a parte Central, augm. de 102 %; para o porto de Hong-Kong, augm. de 82 %. Na importação, a percentagem verificada é a que segue: do porto de Hong-Kong, augm. de 358 %; da parte Central, augm. de 250 %; da parte sul da China, augm. de 82 %; da parte Norte, decrescimo de 10 %. O commercio para com a Manchuria foi, na exportação, do valor de 20.000.000 de yens, sendo de 2.000.000 o excesso sobre a importação, tendo-se verificado um aumento de 0,2 % na importação, e 15 % na exportação, comparado com o algarismo de igual período do anno passado.

A esquadra Japoneza

Foi anunciado pelo ministerio da Marinha que a segunda esquadra japoneza, encarregada de vigiar as costas do norte da China, no sentido de proteger os residentes e pescadores japoneses, bem como o commercio local nipônico, terá como base Porto Arthur.

A aviadora Hiltz em Tokio

O embaixador francês, em Tokio, sr. de Martel, ofereceu um sítio à aviadora francesa Maryse Hiltz e a seu mechanico Lamaire.

Depois do agape, a Sociedade Imperial de Aviação conferiu medalhas aos dois aeronautas. A senhora Maryse Hiltz é a quinta aviadora que recebe semelhante medalha.

A noite houve um espetáculo no teatro Kabuki.

No dia seguinte a aviadora Hiltz levantou vôo com destino a Paris. A primeira escala será em Seul, na Coreia.

Conferencia Internacional de Madrid

Ficou decidido na reunião realizada a 22 do corrente por todos os partidos Japonezes, que o Japão deve opor-se a quaisquer propostas de desarmamento naval, sob pretexto de segurança, apresentadas pelos governos de Londres ou de Washington, desde que as mesmas não tomem em consideração a situação especial em que se acha o Japão para com a China e a Russia Soviética.

O desarmamento

Uma alta autoridade naval japonesa confirmou, numa entrevista dada ao repórter do "Daily Telegraph", em Tokio, que o Japão deve opor-se a quaisquer propostas de desarmamento naval, sob pretexto de segurança, apresentadas pelos governos de Londres ou de Washington, desde que as mesmas não tomem em consideração a situação especial em que se acha o Japão para com a China e a Russia Soviética.

Negociando estradas de ferro

Notícias de Moscou dão como certo que os Soviets concordarão em vender ao Japão a Estrada de Ferro Oriental da Manchuria.

Para efectuar a compra, o Japão não pretende fazê-lo em dinheiro à vista, e sim mediante o cancelamento das dívidas da Russia para com Tokio, num total de cerca de 812 milhões de "yens".

Par outro lado afirma-se, que o governo do Estado Livre da Manchuria está negoclando com o governo soviético a compra da Estrada de Ferro Oriental da China, pelo preço de duzentos milhões de "yens".

A União Soviética parece pouco inclinada a vender aquella ferrovia, mas parece que a situação criada agora na Estrada do Sul da Manchuria torna recomendável a aceitação da proposta.

General Sadao Araki

A espada que conquistou a Manchuria

Sadao Araki é uma das grandes figuras do movimento militar do Japão na Manchuria.

O "Diário de S. Paulo" fez lhe uma grande justiça colocando o seu nome na galeria das celebridades mundiais. Referindo-se ao ilustre militar diz aquelle diário: Sadao Araki, atraído para a carreira militar, teve a sorte de ser general quando o Japão precisava de uma alta patente capaz de disciplinar o exercito e de levar o a uma empresa difícil, mas indispensável à expansão do paiz. Araki foi o indicado para essa missão.

E já se realizou em grande parte. Todo o Oriente o conhece e admira. Mas, para o resto do mundo é quasi um desconhecido. Sabe-se apenas que é uma figura dominante da Asia. Mas, ignora-se geralmente tudo quanto diz respeito à sua personalidade. Seria interessante e opportuno dizer alguma coisa sobre o assumpto.

Pela sua importância política, Araki bem merece figurar na nossa galeria de notabilidades contemporâneas.

Nos mais recentes numeros de "New-York Times", encontramos um curioso estudo do seu correspondente em Tokio, Hugh Byas, sobre o Bismarck oriental. Delle extrahimos os trechos que se seguem:

A propaganda commercial do Brasil no Japão

Os mostruários dos produtos paulistas, que vão figurar no cruzeiro de propaganda commercial, organizado pela Osaka Shosen Kaisha, já seguiram, pelo "Rio de Janeiro Maru", com destino ao Japão.

Fazem parte desses mostruários: café, algodão, milho, oleos vegetais, pelles, couros preparados, madeiras de lei, farinhas e outros produtos nacionais, que vão ser expostos durante o cruzeiro, no Club Brasil, e depois ficarão, definitivamente, no Museu Commercial de Tokio.

A Secretaria da Agricultura de S. Paulo mandou imprimir grande cópia de folhetos em inglês contendo numerosos dados e estatísticas económicas, relativas a S. Paulo, e grande numero de informações sobre a respectiva produção agrícola do Estado.

Os mostruários, bem assim como o grande material de propaganda embarcados no "Rio de Janeiro Maru" foram acompanhados pelo exmo. dr. Lino Finocchio, delegado technique do Estado.

Foi designado pelo governo brasileiro, para compor a representação do Brasil no Japão, o sr. M. Tacla, pessoa de largas relações no dois países e que hoje reside em Kobe.

A questão do prado-ouro

2.) — O Japão deve preparar-se para sustentar uma política que harmonize o crédito por meio da cooperação dos bancos nacionais dos diversos Estados, e ao mesmo tempo, para tomar parte activa no "controle" dos preços;

3.) — Os haveres do Banco Internacional de Ajustes devem ser mobilizados em função de seu crédito, para restaurar a confiança e assegurar o curso normal dos capitais;

4.) — A preocupação principal do Japão deve ser a revisão das tarifas alfandegarias, assim de reverificar o commercio internacional;

5.) — Deve-se ter em conta o facto de não ter sido introduzida nenhuma modificação e ainda menos qualquer aumento nas pautas aduaneiras do Japão;

6.) — Todas as potencias devem adoptar o principio de nação mais favorecida. Constantemente, a tarifa preferencial do Império Britânico é contraria ao princípio fundamental dos tratados comerciais internacionaes;

7.) — Deve-se fiscalizar a produção e a exportação, para adaptar a primeira ao consumo público.

Prolongamento de uma via férrea estratégica

TOKIO — Noticia-se em que a nova linha ferroviária de Kirin será prolongada ulteriormente até Rashin, na costa nordeste da Coréia. O novo ramal reveste-se de grande importância estratégica e económica para o Japão, pois em caso de conflito na fronteira soviética será possível a remessa imediata de tropas para a Manchuria Septentrional. Além disso permitirá a criação de novos mercados que interessam o território mandchú. O programa de construções será levado a effeito no periodo de nove annos e comporta a despesa total de 60 milhões de "yens".

Desastre na aviação

Deu-se um lamentável desastre de aviação na tarde de 22 do corrente.

Um grande avião de bombardeio, que efectuava um vôo de treinamento de Hamamtsu à ilha Formosa, caiu de grande altura ao solo, nas ilhas Loo-Shoo, ficando inteiramente destruído, tendo o piloto morto instantaneamente. Outro apparelho militar caiu em Taiteyama, na occasião em que fazia um vôo de ensaio.

Os EE. UU. reclamam

Telegrammas provenientes de Shanghai dizem que o ministro dos Estados Unidos em Pei-Ping vai dirigir rigorosa reclamação contra o acto dos japonezes bombardeando o edifício ocupado em Tung-Chow pelas tropas norteamericanas.

Por outro lado, altas autoridades japonezas das tropas que operam no Norte da China declararam que o Japão pagará os prejuízos causados por aquele bombardeio, se as referidas missões não davam guarda a tropas chinesas.

IMPRESSOS?

Executam-se com rapidez e perfeição na Secção de Obras do

"NIPPAK SHIMBUN"

Fábrica de Sacos de Papel para Armazéns, Bars e Confeitarias
Rua da Liberdade, 146 — Caixa, 375
Telephone, 2-3926 — SÃO PAULO